



菅波 茂

この世で大切なのは、物の見方や考え方が異なる人たちが、どうしたら共存共栄できるかということである。すなわち「多様性の共存」である。そしてNGOとは「命の普遍性」に関する活動をする団体である。普遍性とは「いつでも、どこでも、誰でも納得できる」という意味である。

AMD Aは「命の普遍性」に健康の分野からの視点でかわる団体である。この活動の普遍性を高めるため、多様性の確保が不可欠である。支部と姉妹団体は、多様性を確保する貴重なネットワークである。

普遍性の確保

民族、宗教、文化などのさまざまな多様性が存在するが、特に日本発のNGOが心しなければいけない項目は宗教、共同体社会そしてローカルイニシアチブの三つである。国際社会で普遍性が必要とされる活動を実施する時の良識である。

まず、宗教について説明する。現在の国際社会を動かしているのは啓典の民、すなわち旧約聖書、新約聖書、そしてコーランを信仰の基本とする

る人たちである。ヒンズー教、仏教、儒教などは非啓典の民である。啓典の民はコンセプトを大切にする。言葉の定義が事始めである。人のために汗を流すことよりも、なぜ汗を流すのが求められる。不言実行よりも有言実行。説明なき親切には警戒感あるのみである。

最後にローカルイニシアチブについて説明する。どんなに普遍性があるコンセプトでも、支援を必要としている人たちの役に立たなければいけない。彼らが支援内容の優先順位を決めるのであって、支援する側が決めるのではない。所変われば品変わる。

次に、共同体社会について説明する。世の中にはさまざまな共同体がある。宗教共同体、血縁共同体、部落共同体など。共同体の論理に対しては個人の論理がある。完全に個人の論理の国はプロテスタントの国である。私たちの支援を必要としている地域は共同体社会が多い。そこには共同体の論理として「相互扶助」

がある。日本は個人の論理がかっ歩している国のように思えるが、国全体が共同体社会である。

(アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者)